ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.2	調査位置				北　緯	36 ° 42 ’ 35.0000 ”
発 注 機 関	栃木県日光土木事務所		調査期間	2008-12-10 ～ 2009-02-17		東　経	139 ° 40 ’ 38.8000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人	コ　ア 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔 口 標 高	395.85 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 40.00 °
総 掘 進 長	7.00 m	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポ ン プ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	394.35	1.50	1.50		表土 (SF)	暗褐			0.0～1.5m：表土 0.0～0.6mはシルト主体で植物根を含む。暗褐色を呈する。 0.6～1.5mは礫混じりシルトで褐色を呈する。植物片を含む。		
2	393.67	0.68	2.18		礫質土 (GF)	暗灰			1.5～2.18m：礫質土 石英安山岩の風化残留物からなる。礫分が多い。		
3					石英安山岩 (An)	灰			2.18～7.0m：石英安山岩 岩片自体は硬質であるが、亀裂間隔は5cm以下で亀裂間は火山灰質な粘土を挟む。コア形状は短柱状～岩片状となる。N値は表層部以外は50以上を示す。卓越する亀裂の角度は30 ° 以下の低角のものと60 ° 程度のものが多い。 [5.50]5.5～7.0mは凝灰角礫岩状となるがマトリックスの固結は良好である。		
4											
5											
6											
7	388.85	4.82	7.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1 / 20	4		5 / 30	5
1.45	50 / 3			50 / 3	>50
2.15					
2.18	50 / 5			50 / 5	>50
3.15					
3.20	50 / 0			50 / 0	>50
4.00					
4.00	50 / 0			50 / 0	>50
5.00					
5.00	50 / 0			50 / 0	>50
6.00					
6.00	50 / 0			50 / 0	>50
7.00					
7.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						01/06
						01/07